

官語彙別記
語彙活語指掌
全全

815.4
M753g3
W

078282-000-5

815.4-M753g3h

語彙別記・語彙活語指掌

文部省編輯寮／編

M24.4

DAC-1904



8754

M753



245351

語彙別記上卷

言語のもたらぬ十四種ありさまとおわかす十種までことなる
故小まづ十種活用をあてて示す 活語指掌小の 第一より第
八までを作用言といふ第九第十を形状言といふ

第四段活用

将然言 連用言 終止言連体言 已然言
さかむ さき さく さめ
咲 咲 咲 咲
如此かきくけと四段小活用く故小四段活用といふなり

第一段活用

将然言連用言 終止言連体言 已然言
かむ 着 きむ 着 きぬ 着
かくきといふのこの一言あつてそれるれの添りてきむきぬと活

号ノアミリノニ...

用くゆゑに一段活用といふなり

第三 中二段活用

将然言連用言終止言

連体言

已然言

か ① おき 起 ② おく 起 ③ おくれ 起 ④ ⑤

かくま ① とりふ二言ありてそれるれの添りて ② おくる ③ おくれと活用くゆゑに中二段活用といふなり

第四 下二段活用

将然言連用言

終止言

連体言

已然言

か ① ② うけ 受 ③ う ④ うくる 受 ⑤ うくれ 受 ⑥

かくけ ① とりふ二言ありてそれるれの添りて ② うくる ③ うくれと活用くゆゑに下二段活用といふなり 下二段活用はけ ④ と ⑤ ⑥ 倒してさへくなり

第五 加行變格活用

将然言

連用言

終止言

連体言

已然言

か ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

かくと ① き ② とりふ三言ありてそれるれの添りて ③ くる ④ くれと活用くゆゑに加行變格といふ此活用へ來といふ言のその活用なり變格と云ふは ⑤ ⑥ と三段は活用が他は異なるくへ不受る辭も異なるが故あり 受る辭の異なるは ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ 図を見合へるべし

第六 佐行變格活用

将然言連用言

終止言

連体言

已然言

か ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

かくせ ① ② ③ とりふ三言ありてそれるれの添りて ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ 活用くゆゑに佐行變格といふこれ活用は為と御坐との二言のその活用なり變格と云ふは ① ② ③ と三段は活用が他は異なるくへ

詩韻別語上卷

受る辭も亦異なるが故なり 圖を見合せてあるべし

第七 奈行變格活用

拵然言 連用言 終言 連体言 已然言
 いむ 往 往 往
使全言 使全言 使全言

かくなのぬとふ四言ありてそれふるれの添ぬるぬれと活
 用くも亦奈行變格とふ此活用は往と死との活用なり變格と
ふのぬとぬと四段小活用が異なるくふぬれ 已然言 希求使全言
 とわらも又受る辭も異なるが故なり 圖を見てこれを三つの變格
 とふ

第八 良行四段一格活用

將然言 連用言終止言 連体言 已然言
 あらむ 有 あらむ 有 あらむ 有
 有 有 有

かくらのるれと四言は活用くゆゑに良行四段一格とふ一格と
ふゆゑの有居侍坐との四言不限まる活用なるがうふありの
 りなどふの常の四段活用の格ありて連用言なるを連用と終
 止とを兼たりされし京小ありつゝ席小をりさまらなど用言
 より用言へつゞけば連用言とあり又京小ありの田舎小をりなど
ふの終止言ともあるが常の四段とかわり受る辭も亦異なり故小
 一格とふ受る辭の異なる圖を見合せてあるべし此の活用
あもむ皆こ
小属せり

第九 くりき活用

連用言 終止言 連体言 連体言 已然言
 浅み 浅し 浅き 浅き 浅けれ
 かく活用をくりき活用とふこの活用のなりとてくしきの三つを
 とりつゞく名とせるなり

語彙別記上卷

十第 ちくちくき活用

連用言 終止言 連体言 已然言

かゝ活用をちくちくき活用とよぶこの活用のなるとして

①の三つをちくちくきとせざるなりこの十種のうち作用言五階

形状言ハ六階よとせざるなりあることとて圖のしむる

作用言

將然言

連用言

終止言

已然言

押	咲	一階	將然言
さ	か	二階	連用言
む	ぎ	三階	終止言
し	き	四階	連体言
つ	て	五階	已然言

第一	立	逢	住	降
た	ま	ら	ま	ら
む	ま	む	ま	ら
け	り	け	り	け
ら	む	ら	む	ら
ま	む	ま	む	ら
き	む	き	む	ら

第二	着	似	干	見	射	居
き	お	ひ	み	み	み	あ
ぎ	む	む	む	む	む	む
て	つ	け	り	な	む	む
ら	む	ら	む	ら	む	ら
む	む	む	む	む	む	ら
む	む	む	む	む	む	ら

起	落
き	ち
ぎ	む
て	つ
ら	む
む	ら
む	ら

語彙別記上卷

六 第 格變行佐 變 為	五 第 格變行加 來	植 枯
せ なまむむ	こ なまむむ	れ ぞ
し なけつて	き なけつて	る か
す かとなまりむ	く かとなまりむ	る を
する をなりにかな	くる をなりにかな	る ぞ
すれ ぞむ	くれ ぞむ	る ぞ

四 第 段 二 下	三 第 段 二 中
消譽添寝捨瘦受得	下老恨戀
めへねてせけえ なまむむ	りみみひ むなま
むふぬつすくう となまりむ	るゆるむふ かとなまり
ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる なりにかな	るゆるむふ をなり
れれれれれれれれ ぞぞ	るゆるむふ ぞぞ

第十第		第九第		
き	く	き	く	
悲	戀	深	淺	
①み		①み		一階 連用言
②み		②み		三階
③み		③み		三階 終止言
④み		④み		四階 連体言
⑤み		⑤み		五階 連体言
⑥み		⑥み		六階 已然言

形状言

第八第		第七第	
格一段四行良	格變行奈		
居有	死往		
⑤		⑤	
⑥		⑥	
⑦		⑦	
⑧		⑧	
⑨		⑨	
⑩		⑩	

作用言ハ五階形状言ハ六階あるごとくまりなきハ 圖面ハ第一階
第二階とちらせりもの詳なることハ次ハ示さざごとし

○第一階ハ四段活用をていさか、おき、たた、あも、まま、ふら
ニ、等なり。一段活用をていさか、おき、たた、あも、まま、ふら
ハおき、おち、おひ、うら、あ、お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
やせずて、お、そ、お、ほ、め、き、お、か、れ、う、お、等なり。加行變格をていさ
行變格をていさか、お、た、た、た、良行四段一格をていさか、お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
く、き活用をていさか、お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
作用言の一階ハ将然言をていさか、お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
形状言の一階ハ連用言をていさか、お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら

○第二階ハ四段活用をていさか、お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
一段活用をていさか、お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら

等なり。下二段活用をていさか、お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら

○第三階ハ四段活用をていさか、お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
一段活用をていさか、お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら
お、ち、お、ひ、お、あ、お、ま、お、ま、お、ふら

諸書別語上卷

詞なきはなり、さきもほふも用言なり

○終止言と云ふゆゑの語意くに至りてやめばなり。花ハさく「花も

さく」花のさく「花さく」など語意やとて用言へも体言へもつゝめ

又終止言ハ「も」の「徒」國とよみ「國」等の係辭さく「等」の結詞なきは

上よ「そ」や「か」の「何」等の係辭あることなり。「そ」や「等」の結詞となら

連体言や終止言ハあらむ次條ハ「ふ」を見るなり

○連体言と云ふ故に「さく」花「花さく」山とほゞきや用言へハ續らねばな

り。花ハ山も体言なり。体言但し上よ「そ」や「か」の「何」國とよみ「國」

に「下」卷等の係辭あまはさく」と云ふ詞ハその結詞となりて其意を

結びとむるこゝに「さく」花「さく」花「さく」花「さく」花「さく」

「さく」世の春をうけて花さく」と結びとむる類なり。こゝに「そ

や「か」の「何」等の係辭不應むればなり。係辭をむまよまごひて「さく

アテウと其意の轉ぶることなり。さくあぢししてさくべし

○咲とつゝ詞ハ終止言と連体言との二のをかかふる詞や其終止言

の「も」も「も」等の結詞となり。連体言のうへに「そ」や「等」の結詞と

なるあり。こゝに「さく」の事ハ「さく」の解ハ下巻を見て知るべし

○已然言とつゝ詞ハ然なることとをいふ詞をさけといふハサイタガ

マアとつゝ意なきはあり。むとつゝ辭をさくまきハ「け」むとなる。花さ

は「さく」花のさかざることをいふ第一階の詞なり。五階と一階とを咲たる

の連ひあり。まよとよと「も」の係辭あまはさく」といふ詞ハ結詞となるあり。花

むまよとむ。上よ「も」の係辭あくしてたゞにさけといふハサイタガヨイ

と云ふ意なる。是を使命令言といふ。使命令言ハ又俗ハサイテタモレといふ

意もなる。是を希求言といふなり。以上を作用言の五階といふ。使命

のこゝに「さく」下巻に「さく」つゝハ形状言の連用言。將然言。終止言。連体辭言。連体言。已然言と

六つ小轉する意をあらわす

○連用言といふ浅く戀しき等ありとて浅きこと戀しきことの形状をいふ詞なりとて連用言といふものゆゑ其意用言へづくが定例なきがゆゑあり俗よびアササニコヒササニの意なり但しこの詞休言へいひてくたたりとも其意用言へつけりとあるべし又あ

○連用言小轉然言を兼ねといふ浅く戀しき等を俗小浅ク色が添マツタと云へ連用言にあらざるやうなまじり色ハ体浅くといふ詞の意ハ色と云ふ体言へつづかぎして添マツタと云ふ用言へ續けはなりまじり戀しきとの辭をもまじり將然言ふたるゆゑは第一階の連用言ハ將然言を兼ねといふなり

○終止言といふ浅く戀しき等なりそのゆゑハ語意あらふたりてやめたり色にあまじり色にあまじり色のあまじり色あまじりと云ひて終止するなり用言も体言もつづかぎずもの徒等の係辭を受けてその結となるなり

○連体辭言といふ浅く戀しき等の係辭あまじりむきひこととなりて其意をつらむまじり上まじりの等の係辭あまじりむきひこととなりて其意を結とする詞となるなり人のつまたさいふか

○連体言といふ浅く戀しき等なりそのゆゑハあまじりこといふまじり人の類も用言へつづかぎはあり又上まじりやかの何等の係辭あまじりあまじりいふ詞もその結詞となりて其意を結

びともびともなるなりなり
【あさき】人のころの【あさき】
【あさき】と結びとむる類なり

○已然言とよひ浅けれ懸けれ等なり、この然なれることをいふ
詞としてアサイガマア、コヒレイガマア、の意なるゆゑに已然言といふ
又上よことカミの係辭カキゴトバあまがあさけれといひければとよふ詞コトバその結び
詞となりて其意を結びとむることとなる、その人のころ【あ
たけ】人【あひ】け【あ】なりの類なり

つぎに作用言五階ごとに舉たる辭の用ひさまを示さべし
○第一階の辭エラハはすむまむむむむの五つなり四段活用する
さかす、さかむ、さかま、さかむ、さかむといふ又一段活用
する、さかむ、さかま、さかむ、さかむといふと其意ふまかせて用
ふべきなり下段ごとにさなるの定なり

○二階の辭ニタラはつつけりなむ、つつけりなむの五つをいふとさきつ、さき
つつけり、さきつなむ、さきつつけりなむあり

○三階の辭ミタラはらむ、らむり、らむり、らむり、らむりの五つをいふとさきつ、さき
つらむ、さきつらむ、さきつらむ、さきつらむ、さきつらむなり

○四階の辭ヨタラはかなふなりむなむ、むなむ、むなむ、むなむ、むなむの五つをいふとさきつ、さき
つむな、さきつむな、さきつむな、さきつむな、さきつむななり

○五階の辭イツハラはむむむむむの三種をいふとさきつ、さきつ、さきつ、さきつ、さきつ、さきつ
も作用言とくする辭五階ごとにあまがむむも下巻ふ示さべし又この外
段活用なるさきつとよふ詞をとりつらむるもこの詞めて八種活用のか
ぎりのあはまたつてこの例なることを示さむとてなり

つどふ形状言六階ごとに奉たる辭の用ひさまを示さべし

○形状第一階の辭シラハはしらふ、しらふ、しらふ、しらふ、しらふ、しらふの六つをいふとさきつ、さき
つしら、さきつしら、さきつしら、さきつしら、さきつしら、さきつしらなり

これ図面第一等の おのづから然る詞なり

○その一種のみ見る 段ニ下 きかざる 段ニ下 なり 我書畫なととりつて他のみ見る、又我が琴ひきて他ふきりたるなどをいふ

自 人よ みする きする

○この図面第二等の 志かざる詞なり 段ニ下 なり 他は狂言をみさ

たる、浄瑠璃をきかざるなり、又みせざる 段ニ下 なり 他は狂言をみさつふ他は狂言をみせざる 段ニ下 なり 他に浄瑠璃をきかせざる 段ニ下 なり、かく二様ありといふも其意ハ一つなり

他 みさる
他 みさる
他 みせざる
他 きかざる

この図面第三等の 他は然せざる詞なり

○その一種のみ見る 段ニ下 きかざる 段ニ下 なり この我がおのづから書畫のみ見る、琴の祓のきむなり、又別はみ見る 段ニ下 なり 段ニ下 なり 我が書畫を他はみ見る、我が琴の祓を他はきかざるなり、これいづれも他は然せらるる詞なり、今よけておのづからといふ他といふ

自 みさる
他 みさる
他 みさる
他 みさる

この図面第四等の 他は然せらるる詞なり

以上自他の四等なり、委しくいともむふハ六等なまどおのづから然るといふら然るとを四等よめて示し、図を見て了知せし

等 おのづから然る
等 おのづから然る
等 物を然る

三	他小然せざる
四	あつら然せらる
等	他小然せらる

こまき然せざる詞とふ
こまき然せらる詞とふ

見一段	隔四段	亂下二段	落中一段	解下二段	習四段	立四段	然遊面一段	八種活用混收
下二段	へたつ	こたす	れつる	とくる	ならふ	たつ	あまぶ	同上
下二段	みま	みごま	おとき	とく	ならま	たつる	あまま	同上
下二段	みま	みごま	おとき	とく	ならま	たつる	あまま	同上
見一段	隔四段	亂下二段	落中一段	解下二段	習四段	立四段	然遊面一段	八種活用混收
下二段	へたつ	こたす	れつる	とくる	ならふ	たつ	あまぶ	同上
下二段	みま	みごま	おとき	とく	ならま	たつる	あまま	同上
下二段	みま	みごま	おとき	とく	ならま	たつる	あまま	同上

詞 下二段 きかまる
詞 下二段 きかまる
詞 下二段 きかまる
詞 下二段 きかまる
詞 下二段 きかまる
詞 下二段 きかまる
詞 下二段 きかまる
詞 下二段 きかまる

をびて然せざるも詞ハ佐行下二段然せらるも詞ハ良行下二段み
限まること上の圖まで明かなれど猶初學の爲は作用の諸活言
より二かこみかゝる一定格を因ふ著しく示き事左の如し

一	第
段	四
着	降住逢立押咲
き	らまもたさか
る	るるるるるるる

二	第
下	下
譽添寢捨瘦受得	得受瘦捨寢添譽
めへねてせけえ	えけせてねへめ
る	るるるるるるる

三第						二第				
段二			中			段一			一	
下	老	恨	戀	落	起	居	射	見	干	似
り	み	み	ひ	ち	き	お	み	み	ひ	お
り	み	み	ひ	ち	き	お	み	み	ひ	お

图中(り) (み) (み) (ひ) (ち) (き) (お) (み) (み) (ひ) (お) とあるハ他小志かせまゝの詞(り) (ち) (き) (お) とあるハ他小

八第	七第	六第	五第	四第		
格長行良	格變行奈	格變行佐	格變行加	植	枯	消
居有	死往	禦為	来	植	枯	消
ら	な	せ	こ	る	れ	ぬ
ら	な	せ	こ	る	れ	ぬ

志かせらるゝ詞なり熟覽し其用法を曉るべし

語彙別記下卷

詞の活用ハ上卷小示したまはるハ辭の運用を示さむとすハ
詞の下ちきてまたらきて詞の意を作用言ハ五階なまは受る辭五階あり
なすけなりそのあるものなり形状言ハ六階あるハ受る辭六階ありその所屬をハ上卷の圖も
著したまはる八種活用ハ畧圖してあまむハに全圖を出すま
 た圖面ふ①②③④とおなづことハの重まるハおなづ詞も輕
 重ありて其意味かたれることハも辭の所屬ふハちりハめむ
 とくなり

○終止言のさ①ハ輕くしてサキマスとらふ意、連体言のさ①ハ
 重くしてサシワイとらふ意、終止言のさ②ハ輕くしてキマスとらふ
 意、連体言のさ③ハ重くしてキルワイとらふ意、おなづ詞も
 かゝのごとく意異なり又④⑤⑥⑦⑧などあるも上の⑨⑩ハ將

然言下の(き)(ち)の連用言めて辭の受ま異なま(心)をどめ
あまきなり 活語指掌の俗解のどらまも
くみてらあまきをこらま

作用言

一階 將然言

二階 連用言

三階 終止言

四階 連体言

五階 已然言

	一	第	四	
著	降	住	逢	立
著	降	住	逢	立
(き)	(り)	(ま)	(も)	(た)
む	む	な	ま	む
(き)	(り)	(み)	(ひ)	(ち)
て	て	な	け	つ
(き)	(る)	(む)	(ふ)	(つ)
ら	か	と	な	ま
(き)	(る)	(む)	(ふ)	(つ)
ら	を	な	に	か
(き)	(れ)	(め)	(へ)	(て)
れ	ぶ	ど	む	

	三	第	中	一
得	下	老	恨	戀
得	下	老	恨	戀
(え)	(り)	(ゆ)	(み)	(ひ)
む	む	な	ま	む
(え)	(り)	(ゆ)	(み)	(ひ)
て	て	な	け	つ
(う)	(る)	(ゆ)	(む)	(ふ)
ら	か	と	な	ま
(う)	(る)	(ゆ)	(む)	(ふ)
ら	を	な	に	か
(う)	(る)	(ゆ)	(む)	(ふ)
ら	れ	ぶ	ど	む

八 第	七 第	六 第
格一段四行良	格變行奈	格變行佐
居 有	死 往	變 為
㊦ むなまむむむ	㊦ むなまむむむ	㊦ むなまむむむ
㊧ なけつて	㊧ なけつて	㊧ なけつて
㊨ なまめアらむ	㊨ なまめアらむ	㊨ なまめアらむ
㊩ をなにかな	㊩ をなにかな	㊩ をなにかな
㊪ ごごむ	㊪ ごごむ	㊪ ごごむ

五 第	四 第	二 第	下
格變行加	段	二	下
来	植 枯 消 譽 漆 寢 梧 瘦 受		
㊫ なまむむむ	㊫ むなまむむむ	㊫ むなまむむむ	㊫ むなまむむむ
㊬ なけつて	㊬ なけつて	㊬ なけつて	㊬ なけつて
㊭ なまめアらむ	㊭ なまめアらむ	㊭ なまめアらむ	㊭ なまめアらむ
㊮ をなにかな	㊮ をなにかな	㊮ をなにかな	㊮ をなにかな
㊯ ごごむ	㊯ ごごむ	㊯ ごごむ	㊯ ごごむ

○形状言ハ上巻全圖を出し

辭ハ運用辭あり、はららかざる辭あり、
詞もてこまらり以下五階の辭どもにらひつけてその用ひあり
を示しまた俗言を添て其意をも曉まべし

作用言第一階辭

① ナイ	② ナイワイ	③ ナイガマア
④ ウ		⑤ ウガマア
⑥ マシヤウ		⑦ マシヤウガマア
⑧ ウナラヨイ		
⑨ ウナラ		

片仮字もをあらうたるハ俗意を示せるなり以下はなな

花ハ咲むといふハサカナイといふ意
花ぞ咲ぬといふハサカナイワイ
といふ意
花とそさかめといふハサカナイカマアといふ意なり
花さかめといふハサカウといふ意
花とそさかめといふハサキマシヤウといふ意
花とそさかめといふハサキマシヤウガマアといふ意なり
花よさらなむといふハサカウナラヨイといふ意なり
花とそさかめといふハサカウナラヨイといふ意なり
花とそさかめといふハサカウナラヨイといふ意なり

作用言第二階辭

① タ	② タワイ	③ タガマア
④ タチヤ	⑤ タワイ	⑥ タガマア
⑦ テキタヤ	⑧ テキタワイ	⑨ テキタガマア
⑩ テイナウ		⑪ テウカマア
⑫ テアツタ	⑬ テアツタワイ	⑭ テアツタガマア

花とそさかめといふハサカウナラヨイといふ意なり
花とそさかめといふハサカウナラヨイといふ意なり
花とそさかめといふハサカウナラヨイといふ意なり

花さきくといふ雅言俗言差別なり。花さきつといふサイタ
 サイテシマウタといふ意。花どさきつるといふサイタワイ又サイテシ
 マウタワイといふ意。花をさきつるといふサイタガマア又サイテシ
 マウタガマアといふ意なり。花はさきけりといふサイタチヤ又サイテ
 キタチヤといふ意。花をさきけるといふサイタワイ又サイテキタワイ
 の意。花をさきけむといふサイタガマア又サイテキタガマアといふ
 意なり。花はさきむといふハサカウ又サイテイナウといふ意。花を
 さむといふハサカウガマア又サイテイナウガマアといふ意なり。ノ
 花はさむきといふハ前ノ年サイテアツタといふ意。花どさきとい
 うハ前ノ年サイテアツタワイといふ意。花をさきかといふハ前
 前ノサイテアツタガマアといふ意なり。 圖面より心を舉ぐりて見ると

作用言第三階辭

らむ	デアラク	らめ	デアラクガア
り		けれ	ベキデアラク
めり	トミエス	める	トミエガア
まど	マイ	まど	マイガマア
なり	チヤ	なれ	チヤガマア
と			
サ			

花はさくらむといふハサクデアラクといふ意。花をさくらめといふ
 ハサクデアラクガマアといふ意なり。花はさくべるといふハかめて

ねもかる辭めて雅俗差別なり。まことつうひさまふよりしてサイ
 タガヨイとつふ意のべりあり。花ぞさくべきとつふハサクベキトヲ
 アラウとつふ意。花こそさくべけとつふハサクベキトデアラウガ
 マアとつふ意なり。花はさくめり」とつふハサクトミエマスとつふ意
 花ぞさくめるとつふハサクトミエルワイとつふ意。花こそさくめと
 とつふハサクトミエマ스가マアとつふ意なり。花のさくまじとつふ
 ハサクマイとつふ意。花ぞさくまじきとつふハサクマイワイとつふ
 意。花こそさくまじはまじとつふハサクマイガマアとつふ意なり
 花はさくなり」とつふハサクヂヤとつふ意。花ぞさくなり」とつふハ
 サクワイとつふ意。花こそさくなるとつふハサクヂヤガマアとつふ
 意なり。花さく」とつふハ終止ある詞をいひおこして下へ
 ぶくる辭なり。これハ雅俗差別なり。花のさくか」とつふハ
 サクサとつふ意めてサハ詞の下ふとつふ詠嘆の辭なり

作用言第四階辭

かな	ヂヤナア
お	
なり	ヂヤ デアルヂヤ
なれ	ワイ デアルワイ
き	ヂヤカマア デアルヂヤガマア

花のさくうな」とつふハサクヂヤナアとつふ意なり。花のさくおとい
 ふハ雅俗差別なり。花はさくなり」とつふハサクヂヤ又サクデア
 ルヂヤとつふ意。花ぞさくなるとつふハサクワイ又サクデア
 ルワイとつふ
 意。花こそさくなれ」とつふハサクヂヤガマア又サクデア
 ルヂヤガマア

とつゝ意なり、このなりならむとも運用ども三階のなりならむとつゝ
運用なり、ちまき三階のありと四階のありと異なるけぢめなり、「花
のさくを」とつゝの雅俗差別なり

作用言第五階辭

⑥	ソコデ
⑤	ナレド
④	ナレドモ

花さけむとつゝのサイタガマア、ソコデをいふ意なり、ソコデと解まるる
第五階のこの意の俗意なり「花さけむとつゝのサイタガマア、ナレド
とつゝ意」花さけむとつゝのサイタガマア、ナレドモとつゝ意なり、以
上作用言五階の辭の俗解なり、図面としてらゝあをせて心う

べー

形状言の辭も作用言の辭とかわることなままが別な解を出さず
たして知るべし

希求言使令言之辭

物をまかせよとあふまゝの詞も二種あり、その一種を希求とつゝそ
の一種を使令とつゝかく二種ふまゝのれてあふまゝもその詞のひら
なりたて用ひさまふよりて意のかたまりであるいは希求あるいは使
令となるあり、下にお出す図まゝの俗解を見てさるるあり、但し
形状言の希求使令ある事なままが作用言の圖のをもを出
せり

希求言 使令言 指掌圖

八第		七第		一第					
一格	四段	格	行奈	段					
居	有	死	往	降	住	逢	立	押	咲
を	あ	志	い	ふ	す	あ	た	お	さ
れ	れ	ね	ね	れ	め	へ	て	せ	け
ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ

五階

四段奈行變格良行四段一格等ハ五階の詞やぐ希求使令となる花よさけちらであれの類なり志あるを中昔よりよとつ辭をそつてさけよあれいとつことらで来たまどねなくんよをそへむしてつふたりさるゆゑ片假字もしてあると

三第				二第			
中				一			
段	二	起	落	起	見	射	居
下	老	恨	戀	起	見	射	居
お	お	ら	こ	お	お	み	あ
り	ら	み	ひ	ち	き	み	ら
よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ

階

一段中二段等ハ一階の詞ふかならむとみとつ辭をそつて希求使令となるが定格たりそ「衣をきよ親よよ」早くおきよ人をうらみよの類なり

吾

編輯權助木村正辭
權少外史横山由清
總裁

岡本保孝

神祇大錄

小中村清矩

榊原芳野

黒河真頼

同撰

間宮永好

塙忠韶

明治廿四年四月廿五日印刷
明治廿四年四月廿八日發行

京都市麩屋町御池
上上泉町廿番戸
發行兼印刷者 本田市次郎

語彙別記下卷

活語指掌

言語のたらしきことなるふたつあり其の詞の活用と辭の運用となり
詞と云ふはあふちりさくちり又あひあひふさきさきあひあひさ
あひとあひと接とさきとさきと接とさきとさきと接とさきとさきと接と
あひも用言さきも用言なりさきも用言なりさきも用言なりさきも用言なり
云ふいむむてつりりりむめりかなふをむどどりの類なりあひもさ
あひもさあひもらんあひもへいなどのよてらんをさき辭なり餘はなまら
へて知るべし辭の運用のとも又其意味等ハ別記ハ解也
詞の活用の數十種あきまらまづ十種を示す第一四段活用第二二段
活用第三中二段活用第四下二段活用第五四行變格活用第六四行變
格活用第七奈行變格活用第八良行四段一格活用第九くつき活用第
十ちくちくつき活用等の十種 第一より第八までを作用言となり
語學せむとあひの十種活用の順序を上より下へ縦ふよみあらひてそ

語彙活語指掌

本書活語の下ニキクシク
 おお うこ
 下る老恨心息
 おお うこ
 下る老恨心息
 おお うこ
 下る老恨心息

リイミキ
 ルユシガ
 ルユルフル
 ルユルフル

四第 下二段活用

本書活語の下ニキクシク
 そ 寝ぬ 捨つ 瘦す 受く 得う
 そ 寝ぬ 捨つ 瘦す 受く 得う
 そ 寝ぬ 捨つ 瘦す 受く 得う
 そ 寝ぬ 捨つ 瘦す 受く 得う

へ 初 テ セ 分 エ
 フ ヌ ツ ス シ ウ
 フ ス ツ ス ク ウ
 フ ル ル ル ル
 フ ヌ ツ ス ク ウ
 レ レ レ レ

なごうとあるは即こまなり

五第 加行變格活用

本書活語の下ニエウウル
 ほむ 響む 響む 響む
 植 枯 消 消 消
 植 枯 消 消 消

エレエメ
 ウルユム
 ウルユル
 ウルユル

本書活語の下ニエウウル
 こむ 響む 響む 響む
 来 来 来 来

コキククルク
 コキククルク

六第 佐行變格活用

本書活語の下ニエウウル
 せむ 響む 響む 響む
 来 来 来 来

セリスル
 セリスル

本書活語の下ニエウウルとあるは即こまなり

おむ おむ うむ こむ
おむ おむ うむ こむ
おむ おむ うむ こむ
おむ おむ うむ こむ

リイミキ
ルユムフ
ルユムフ
ルユムフ

四第 下二段活用

そ 添 け 受 う 得
そ 添 け 受 う 得
そ 添 け 受 う 得
そ 添 け 受 う 得

へ 不 七 分 工
フ ス ツ ス ク ウ
フ ス ツ ス ク ウ
フ ス ツ ス ク ウ

たろ たら 即こまなり

ほむ ぼむ ぼむ ぼむ
かむ かむ かむ かむ
きむ きむ きむ きむ
ほむ ぼむ ぼむ ぼむ

エレエム
ウルユム
ウルユム
ウルユム

五第 加行変格活用

こむ きむ くむ くれ
こむ きむ くむ くれ
こむ きむ くむ くれ
こむ きむ くむ くれ

コキクク
クルクレ

六第 佐行変格活用

せむ しむ すむ すれ
せむ しむ すむ すれ
せむ しむ すむ すれ
せむ しむ すむ すれ

セシスス
スレ

語彙活語皆等

う	か	ま	ほ	そ
う	か	ま	ほ	そ
う	か	ま	ほ	そ
う	か	ま	ほ	そ

本書活語の下小エウエルエなごたるが即これなり

佐行變格活用俗言格

あん^案あん^案あん^案あん^案

ジズズルジレ

本書活語の下小ジズズルジレなごたるが即これなり
こままの八種を作用言とつ次ある二種を形状言とつ

九第 クレキ活用

あさく	あさ	あさ
浅	浅	浅

ク
レ
キ

本書活語の下小クレキなごたるが即これなり

十第 シクシキ活用

こい	こい	こい
戀	戀	戀

シ
ク
シ
キ

本書活語の下小シクシキなごたるが即これなり

如此片假名もてあるつてその詞の活用をあらわしむと
と初學の徒のうち見てのこままの八種をあらわしむと

○^五の順序をよみおわぬべきなり
皇國言の活用
むたえに作用言總圖をあらわして次示す
五十連音のつら

次ハ活語指掌圖をあらわして示すそのゆゑの上ニあらざる作
用言總圖をおかす得たらむのち形状言のあらましをもお
かすむがためなり作用言と形状言とをとりうねが活用さま
一とてりいなまことなりならむとてこの圖をよみおしえ
むよつきてころろぶきことあり將然言とあるその太き線の
こゝにあらはせりあらむとする詞なりまことかむおむと
やうむの辭をもとむるは④のひいての詞とせずまこと
つくるみたりもはらへされが將然言のふりなりなりとて
の辭をもたりかくまふよならむ得がねのつらう將然言の
意ともやうあらまんとおしめねどく次ハ連用言といふ
用言より用言へへく詞あることをあらはむこの詞よりあら
ま④まらふお①の詞とあらむたるをよみつけてあ

ちひあるべし終止言といふ語意とてつひをもちたり連体
言といふ用言より体言よづく語なるがあるまかくつひなり
よりあらはれ⑤の花おす車と体言へつひづくるをいふこの詞と
なりたるをよみつけあらむし已然言といふはまごめあら
なりたることをいふ詞あり花とそはけ車をもおせといひ又花と
けが車をおせなど類なり言となりて又其意異多きこととをいふ
はけのまごめをいふはけのまごめは將然言連用言終止言連体言已然言を詞
の五階と名づけてこの五階を四段活用あり終止と連体とをか
ねて圖す一段活用中二段活用下二段活用あり將然と連用とを
かめて圖すかねあせて圖はあらむなるなり良行四段一格といふ
り連体と終止とをかねるなり

活語指掌圖

第 下	三 段	第 二 中	二 段
捨瘦受得	下老恨戀落起	居射	
てせけえ むむむむ	りひみひちき むむむむむ	ぬひ むむ	
や なま と そむ	ゆか な な つ つ	つ とほ	
つきくう	るゆむふつく		
るるるる	るるるるるる	るる	
物身物宝	人身事人葉人	人箭	
れれれれ	れれれれれれ	れれ	

第 一	一 段	第 四	
見干似著	降住逢立押咲		
みひにき むむむむ	らまもたさか むむむむむ		
あき から か なら			
	りみひちしき くまるみるもやに るるるるる		
るるるる	るむふつんく		
書麥人衣雨家人人車花			
れれれれ	れめへてせけ		

活語指掌圖

將然言

連用言終止言連体言

已然言

大き線のつらつらとあるは、
かねよりあるは、
かねよりあるは、

第十第 きく 悲	第九第 きく 深	これよりの八種を作用言といふ これより三種を形撰言といふ	第八第 格一段 居	第七第 格變行奈 死
① ある	② たのむ		③ つく	④ なむ
⑤ 事	⑥ 心		⑦ 人	⑧ 命人
⑨ れ	⑩ れ		⑪ れ	⑫ れ

第六第 格變行佐 爲	第五第 格變行加 來	四段			
⑬ む	⑭ む	⑮ む	⑯ む	⑰ む	⑱ む
⑲ ま	⑳ ま	㉑ む	㉒ む	㉓ む	㉔ む
㉕ ま	㉖ く	㉗ む	㉘ む	㉙ む	㉚ む
㉛ 君業	㉜ 人	㉝ 苗	㉞ 草	㉟ 雪	㊱ 事物
㊲ れ	㊳ れ	㊴ れ	㊵ れ	㊶ れ	㊷ れ

上は擧たる指掌圖をよくまじらちまひむつたてて其俗意を
 あらざりすみやかよ心得ざりしものより十種活用あり
 なるて俗意をあてて童蒙のたよりとす但し連体言も
 結詞結詞と係辭係辭ともまじりたるもの名たりされどそのこと今こふふな
 まるもの俗解せりるるさ花かす車くるまなるひつくる類ひひ
 へも今もかきりしことなくして別な俗解まぶくもあらざりしをかし
 又こふ心づきこと終止言をかり軽と記して示す連体
 言重と記して示すその四段活用一段活用終止と
 連体ともかゝりて圖せれば早く見らむとめなりよく讀み味あじ
 ちるべし

段 四 行 加		段 四 行 佐	
將然 <small>さ</small> か <small>か</small> む <small>む</small> サ <small>サ</small> カ <small>カ</small> ウ <small>ウ</small>	將然 <small>さ</small> か <small>か</small> む <small>む</small> サ <small>サ</small> カ <small>カ</small> ウ <small>ウ</small>	この車 <small>くるま</small> のたいさうか も車 <small>くるま</small> ヂヤ <small>ヂヤ</small> ヨ <small>ヨ</small> シ <small>シ</small> ト <small>ト</small> フ たうてオ <small>オ</small> カ <small>カ</small> ウ <small>ウ</small>	この車 <small>くるま</small> のたいさうか も車 <small>くるま</small> ヂヤ <small>ヂヤ</small> ヨ <small>ヨ</small> シ <small>シ</small> ト <small>ト</small> フ たうてオ <small>オ</small> カ <small>カ</small> ウ <small>ウ</small>
連用 <small>ま</small> き <small>き</small> に <small>に</small> ほ <small>ほ</small> ふ	連用 <small>ま</small> き <small>き</small> に <small>に</small> ほ <small>ほ</small> ふ	れい車 <small>くるま</small> とみあ ぢやりくのことて お <small>オ</small> カ <small>カ</small> ウ <small>ウ</small> や <small>や</small> り <small>り</small> マ <small>マ</small> ス	れい車 <small>くるま</small> とみあ ぢやりくのことて お <small>オ</small> カ <small>カ</small> ウ <small>ウ</small> や <small>や</small> り <small>り</small> マ <small>マ</small> ス
終止 <small>ま</small> き <small>き</small> に <small>に</small> ほ <small>ほ</small> ふ	終止 <small>ま</small> き <small>き</small> に <small>に</small> ほ <small>ほ</small> ふ	終止 <small>ま</small> き <small>き</small> に <small>に</small> ほ <small>ほ</small> ふ 道 <small>みち</small> が <small>が</small> る <small>る</small> い <small>い</small> が <small>が</small> 車 <small>くるま</small> ハ <small>ハ</small> オ <small>オ</small> レ <small>レ</small> マ <small>マ</small> ス 重 <small>重</small> あ <small>あ</small> の <small>の</small> 車 <small>くるま</small> ヂ <small>ヂ</small> ヤ <small>ヤ</small> ガ あ <small>あ</small> れ <small>れ</small> あ <small>あ</small> の <small>の</small> や <small>や</small> う <small>う</small> に <small>に</small> オ <small>オ</small> ス <small>ス</small> ワ <small>ワ</small> イ	終止 <small>ま</small> き <small>き</small> に <small>に</small> ほ <small>ほ</small> ふ 道 <small>みち</small> が <small>が</small> る <small>る</small> い <small>い</small> が <small>が</small> 車 <small>くるま</small> ハ <small>ハ</small> オ <small>オ</small> レ <small>レ</small> マ <small>マ</small> ス 重 <small>重</small> あ <small>あ</small> の <small>の</small> 車 <small>くるま</small> ヂ <small>ヂ</small> ヤ <small>ヤ</small> ガ あ <small>あ</small> れ <small>れ</small> あ <small>あ</small> の <small>の</small> や <small>や</small> う <small>う</small> に <small>に</small> オ <small>オ</small> ス <small>ス</small> ワ <small>ワ</small> イ
已然 <small>ま</small> き <small>き</small> に <small>に</small> ほ <small>ほ</small> ふ	已然 <small>ま</small> き <small>き</small> に <small>に</small> ほ <small>ほ</small> ふ	已然 <small>ま</small> き <small>き</small> に <small>に</small> ほ <small>ほ</small> ふ き <small>き</small> の <small>の</small> ふ <small>ふ</small> を <small>を</small> 花 <small>はな</small> ハ サイ <small>サイ</small> ク <small>ク</small> ガ <small>ガ</small> マ <small>マ</small> ア	已然 <small>ま</small> き <small>き</small> に <small>に</small> ほ <small>ほ</small> ふ き <small>き</small> の <small>の</small> ふ <small>ふ</small> を <small>を</small> 花 <small>はな</small> ハ サイ <small>サイ</small> ク <small>ク</small> ガ <small>ガ</small> マ <small>マ</small> ア

語彙の語彙

段四行波		段四行多	
將然 た(た)む(む)ウ	連体 た(ち)も(も)る	終止 た(つ)タチマス	已然 た(て)タチガマア
かう風(か)吹(ふ)て(て)い(い)る(る)の(の) を(を)見(み)て(て)居(い)ら(ら)ま(ま)さ(さ) な(な)い(い)サ(サ)ア(ア)く(く)ま(ま)や(や)く(く) タ(タ)ウ(ウ)	何(なに)事(じ)の(の)出(で)来(き)た(た)や(や) ら(ら)ん(ん)あ(あ)の(の)人(ひと)の(の)見(見)物(もの)を(を) ま(ま)う(う)け(け)た(た)ち(ち)を(を) り(り)マ(マ)ス	物(もの)を(を)ま(ま)て(て)居(い)ら(ら)ま(ま)さ(さ)く(く)し(し)ん(ん) タ(タ)チ(チ)マ(マ)ス つ(つ)ぼ(ぼ)い(い)ら(ら)ま(ま)さ(さ)の(の)飽(飽) や(や)う(う)に(に)シ(シ)ツ(ツ)フ(フ)イ(イ)	其(その)場(ば)を(を)ま(ま)り(り) ま(ま)ず(ず)あ(あ)ら(ら)は(は)タ(タ)ツ(ツ) タ(タ)ガ(ガ)マ(マ)ア
將然 あ(は)む(む)ア(ア)ウ	連用 あ(い)み(み)る	終止 あ(あ)ア(ア)マ(マ)ス	已然 あ(あ)ア(ア)ガ(ガ)マ(マ)ア
い(い)ろ(ろ)く(く)ま(ま)あ(あ)く(く)た(た)い(い) こ(こ)も(も)あ(あ)る(る)ギ(ギ)ヤ(ヤ)ウ(ウ)づ(づ) ま(ま)明(あ)日(にち)茶(ち)屋(や)で(で)つ(つ) ミ(ミ)ウ(ウ)	こ(こ)も(も)あ(あ)ら(ら)ま(ま)さ(さ)ぬ(ぬ)こ(こ) と(と)く(く)思(おも)う(う)た(た)が(が)今(いま)日(にち) い(い)ろ(ろ)く(く)ま(ま)あ(あ)く(く)あ(あ)い(い)み(み)マ(マ)ス	ま(ま)さ(さ)く(く)お(お)ま(ま)ち(ち) あ(あ)ま(ま)い(い)チ(チ)ヨ(ヨ)ツ(ツ)と(と)ア(ア)マ(マ)ス か(か)い(い)約(やく)束(そく)あ(あ)る(る) こ(こ)も(も)こ(こ)の(の)や(や)う(う)に(に)ア(ア)フ(フ)フ(フ)イ(イ)	け(け)ふ(ふ)こ(こ)も(も)あ(あ)ら(ら)ま(ま)さ(さ)く(く) ア(ア)フ(フ)タ(タ)ガ(ガ)マ(マ)ア

段四行良		段四行麻	
將然 ふ(ら)む(む)ウ	連用 ふ(ら)む(む)る	終止 ふ(ら)フ(フ)リ(リ)マ(マ)ス	已然 ふ(ら)フ(フ)リ(リ)ガ(ガ)マ(マ)ア
た(た)い(い)ま(ま)さ(さ)う(う)雲(う)が(が)出(で)る(る) 来(き)た(た)ち(ち)や(や)う(う)て(て)大(お)お(お)き(き)マ(マ)ス 雨(あ)り(り)ウ(ウ)	ま(ま)つ(つ)ら(ら)ふ(ふ)な(な)ら(ら)つ(つ)て(て) 大(お)お(お)き(き)マ(マ)ス	後(のち)ふ(ふ)い(い)れ(れ)ま(ま)さ(さ)う(う) が(が)一(いち)度(ど)バ(バ)ア(ア)リ(リ)マ(マ)ス ひ(ひ)と(と)の(の)立(た)ち(ち)が(が)ヤ(ヤ) こ(こ)れ(れ)ら(ら)の(の)や(や)う(う)に(に)フ(フ)ル(ル)フ(フ)イ(イ)	夜(よ)の(の)間(ま)ふ(ふ)も(も)こ(こ)の(の) や(や)う(う)に(に)雲(う)が(が)フ(フ)リ(リ)ガ(ガ)マ(マ)ア
將然 ま(ま)む(む)ウ	連用 ま(み)ま(ま)る	終止 ま(ま)ス(ス)ウ(ウ)イ(イ)	已然 ま(ま)む(む)ス(ス)ガ(ガ)マ(マ)ア
こ(こ)の(の)や(や)う(う)な(な)家(いえ)だ(だ)い(い) 家(いえ)あ(あ)り(り)永(とこ)く(く)居(い)る(る)氣(き) い(い)な(な)い(い)に(に)ア(ア)チ(チ)ヨ(ヨ)ツ(ツ)と(と) ス(ス)ウ(ウ)	住(す)ま(ま)れる(る)た(た)け(け)に(に)あ(あ)ら(ら) 家(いえ)が(が)住(す)で(で)居(い)て(て)い(い)け(け) な(な)く(く)も(も)ま(ま)い(い)に(に)ま(ま)す(す) ま(ま)て(て)ま(ま)す(す)	な(な)が(が)く(く)居(い)る(る)に(に) り(り)チ(チ)ヨ(ヨ)ツ(ツ)と(と)ア(ア)マ(マ)ス ま(ま)い(い)家(いえ)が(が)チ(チ)ヨ(ヨ)ツ(ツ)か(か)ら(ら) こ(こ)も(も)こ(こ)の(の)や(や)う(う)に(に)ス(ス)ム(ム)フ(フ)イ(イ)	今(いま)ま(ま)で(で)こ(こ)も(も)こ(こ)ら(ら) く(く)て(て)こ(こ)の(の)家(いえ)が(が) ス(ス)ン(ン)ダ(ダ)ガ(ガ)マ(マ)ア

加 行 一 段		奈 行 一 段	
<p>将然 ㊦む キ㊦ウ</p> <p>秋風がなつてつらうまじく なつたや裕を㊦ウ</p>	<p>連用 ㊦なうまじ</p> <p>あつたや衣服のまじ なつたや裕を㊦ウ</p>	<p>将然 ㊦む ㊦ヤウ</p> <p>先生のねとなひを見な らうなら後まじく㊦ヤウ</p>	<p>連用 ㊦かまじ</p> <p>先生のありを見ならうて 居る故に講釋のありが まじく㊦かまじ</p>
<p>終止 ㊦</p> <p>衣服が出来たう キマス</p>	<p>終止 ㊦</p> <p>衣服のまじなつたや裕が まじなつたや裕を㊦ウ</p>	<p>終止 ㊦</p> <p>講釋のありをまじく 故なく先生ニマス</p>	<p>終止 ㊦</p> <p>骨折たとまじく先生 の講義のありにまじく やうにニルワイ</p>
<p>已然 ㊦れ キタガマア</p> <p>若き時をこのやうな まじな衣服もキタガマ ア</p>	<p>已然 ㊦れ</p> <p>先生のを見なまじたれば まじく講釋がうまじ ニタガマア</p>	<p>已然 ㊦れ ヒタガマア</p> <p>天気がよくつらうまじ 乾物がよくヒタガマア</p>	<p>已然 ㊦れ</p> <p>天気がよくつらうまじ 乾物がよくヒタガマア</p>

波 行 一 段		麻 行 一 段	
<p>将然 ㊦む ㊦ヤウ</p> <p>大さうよい天気やこの日 よりなうまじのまじく ㊦ヤウ</p>	<p>連用 ㊦かまじ</p> <p>天気がよくつらうまじ 乾物がよくヒタガマア</p>	<p>将然 ㊦む ㊦ヤウ</p> <p>その書いのまじい書物や 今日の見いの明日のまじ ㊦ヤウ</p>	<p>連用 ㊦あまじらむ</p> <p>晝夜つとめてまじ故う まじか書なまじなまじ まじ㊦あまじらむ</p>
<p>終止 ㊦</p> <p>天気よくつらうまじ ものが今日よくヒマス</p>	<p>終止 ㊦</p> <p>晴天まじなつたや裕 まじ物があれあのやう まじニルワイ</p>	<p>終止 ㊦</p> <p>今日いひまじなまじ 書をニマス</p>	<p>終止 ㊦</p> <p>此書いのまじい書 まじからこれのやうに ニルワイ</p>
<p>已然 ㊦れ ヒタガマア</p> <p>天気よくつらうまじ 乾物がよくヒタガマア</p>	<p>已然 ㊦れ</p> <p>先生のを見なまじたれば まじく講釋がうまじ ニタガマア</p>	<p>已然 ㊦れ ヒタガマア</p> <p>今日いひまじなまじ 書をニマス</p>	<p>已然 ㊦れ</p> <p>此書いのまじい書 まじからこれのやうに ニルワイ</p>

也 一行 段		行 一 段	
將然 (㊦) ㊦	①ヤウ	將然 (㊦) ㊦	キヤウ
弓を射たいものチヤガイと かしくなるらぬひまを見 てのヤウ		世話小たのむのに至つて氣 のどくチヤガうなるがふ いままさ(㊦)キヤウ	
連用 (㊦) とほま		連用 (㊦) つく	
弓勢とつふふみかちを いりのチヤ植し開し ほ(㊦)マス		あの人(㊦)つめなま(㊦)ぬ(㊦) た(㊦)ら(㊦)氣(㊦)を(㊦)ん(㊦)ご(㊦)も と(㊦)や(㊦)つ(㊦)き(㊦)マ(㊦)ス	
終止 (㊦) ㊦	イマス イルワイ	終止 (㊦) ㊦	キマス キルワイ
下手でいあるが尺二 の的ならイマス		終止 (㊦) ㊦	キマス キルワイ
連者(㊦)な(㊦)ら(㊦)か(㊦)け 鳥(㊦)でも(㊦)こ(㊦)ま(㊦)の(㊦)や(㊦)ら(㊦)お イルワイ		連休 (㊦) ㊦	キマス キルワイ
已然 (㊦) ㊦	イタガマア	已然 (㊦) ㊦	キタガマア
尺二の的であま(㊦)ば(㊦)こ(㊦)を やうくイタガマア		より奉公(㊦)ま(㊦)ま(㊦)ら(㊦)こ(㊦)を 十年(㊦)の(㊦)ま(㊦)り(㊦)も(㊦)キ(㊦)タ(㊦)ガ(㊦)マ(㊦)ア	

加 一行 段		多 行 中 段	
將然 (㊦) ㊦	オキヤウ	將然 (㊦) ㊦	オチヤウ
終止 (㊦) ㊦	オキマス	終止 (㊦) ㊦	オチマス
夜があ(㊦)る(㊦)こ(㊦)の(㊦)や(㊦)ら(㊦)お(㊦) オキマス		夜があ(㊦)る(㊦)こ(㊦)の(㊦)や(㊦)ら(㊦)お(㊦) オキマス	
連用 (㊦) ㊦		連用 (㊦) ㊦	
夜があ(㊦)る(㊦)こ(㊦)の(㊦)や(㊦)ら(㊦)お(㊦) ワ(㊦)イ(㊦)と(㊦)ま(㊦)り(㊦)の(㊦)人(㊦)が(㊦)オ キ(㊦)マ(㊦)ス		夜があ(㊦)る(㊦)こ(㊦)の(㊦)や(㊦)ら(㊦)お(㊦) ワ(㊦)イ(㊦)と(㊦)ま(㊦)り(㊦)の(㊦)人(㊦)が(㊦)オ キ(㊦)マ(㊦)ス	
終止 (㊦) ㊦	オキルワイ	終止 (㊦) ㊦	オチルワイ
つそ(㊦)ぐ(㊦)ら(㊦)早(㊦)朝(㊦) よ(㊦)こ(㊦)の(㊦)や(㊦)ら(㊦)お(㊦) オキルワイ		つそ(㊦)ぐ(㊦)ら(㊦)早(㊦)朝(㊦) よ(㊦)こ(㊦)の(㊦)や(㊦)ら(㊦)お(㊦) オキルワイ	
連休 (㊦) ㊦	オキルワイ	連休 (㊦) ㊦	オチルワイ
つそ(㊦)ぐ(㊦)ら(㊦)早(㊦)朝(㊦) よ(㊦)こ(㊦)の(㊦)や(㊦)ら(㊦)お(㊦) オキルワイ		つそ(㊦)ぐ(㊦)ら(㊦)早(㊦)朝(㊦) よ(㊦)こ(㊦)の(㊦)や(㊦)ら(㊦)お(㊦) オキルワイ	
已然 (㊦) ㊦	オキタガマア	已然 (㊦) ㊦	オチタガマア
用事(㊦)があ(㊦)ま(㊦)ば(㊦) こ(㊦)を(㊦)早(㊦)く(㊦)オ(㊦)キ タ(㊦)ガ(㊦)マ(㊦)ア		昨夜(㊦)の(㊦)大(㊦)風(㊦)ら(㊦)あ(㊦)つ(㊦) ま(㊦)ば(㊦)こ(㊦)を(㊦)今(㊦)朝(㊦)の(㊦)柿 が(㊦)た(㊦)く(㊦)ま(㊦)ん(㊦)オ(㊦)チ(㊦)タ(㊦)ガ マ(㊦)ア	

五ノ下ノ五ノ下ノ下

波 中行 二段		麻 中行 二段	
<p>將然^①コヒヤウ 子供よあまひにたひ よたつこならまこ めてコヒヤウ</p> <p>連用^②かぢぢむ 親のなの子にあれ まのぢや情をわひ こしてコヒヤウ</p>	<p>終止^③コヒマス あつたつて人を コヒマス</p> <p>連体^④コヒルワイ 察しくもごされ きたくこのれ やうにコヒルワイ</p> <p>已然^⑤コヒガマア あなご御出が ままごを ごご西三日コフ タカマア</p>	<p>將然^①ウラミヤウ かうまぐれとつまない で居てのまごめ ウラミヤウ</p> <p>連用^②わひみ 夫の心が薄情なと みえて女房が毎日々 ウラミわひマス</p>	<p>終止^③ウラミマス こらむなとよても こころウラミマス</p> <p>連体^④ウラミワイ あまご不實ゆ るまごこのれ このやうウラミル ワイ</p> <p>已然^⑤ウラミガマア それをまご あまごを ウラミガマア</p>

世 中行 二段		良 中行 二段	
<p>將然^①オイヤウ このやうに物よ心配し たふら顔のまご オイヤウ</p> <p>連用^②かまほ つよい男であつたが 年がまると腰を まごまほマス</p>	<p>終止^③オイマス 年がまるとのまご やうなオイマス</p> <p>連体^④オイルワイ 年がまごあまれ ま物ぢあまれの やうオイルワイ</p> <p>已然^⑤オイタガマア あまご心配を かごこの西三年 オイタガマア</p>	<p>將然^①オイヤウ まご風うやく 二階からオイヤウ</p> <p>連用^②おやく 二階のやぢや くしコトオイヤウ</p>	<p>終止^③オリマス 只今二階の がす次第そま オリマス</p> <p>連体^④オイルワイ 二階の萬事不自由 ぢやとみえてあれ あのやうふと もぐオイルワイ</p> <p>已然^⑤オリガマア 二階のイヤぢや くのことごと 下まてオリガ マア</p>

言部

商法がよくなる利を
今年、商法をよくすの目
し、今年、正月から利を
えそのマス

段二下行阿		段二下行加	
將然 ㊦ ㊧ ヤウ	終止 ㊨ エマス	將然 ㊩ ㊪ ヤウ	終止 ㊫ ウケマス
連用 ㊬ ヤウ	連休 ㊭ エルワイ	連用 ㊮ ヤウ	連休 ㊯ ウケルワイ
已然 ㊰ エカマア	已然 ㊱ エカマア	已然 ㊲ ヤセガマア	已然 ㊳ ヤセガマア

段二下行佐	
將然 ㊴ ㊵ ヤウ	終止 ㊶ ヤセマス
連用 ㊷ ヤウ	連休 ㊸ セルワイ
已然 ㊹ ヤセガマア	已然 ㊺ ヤセガマア

段二下行多	
將然 ㊻ ㊼ ヤウ	終止 ㊽ ステマス
連用 ㊾ ヤウ	連休 ㊿ スルワイ
已然 ㋀ ステガマア	已然 ㋁ ステガマア

商法がよくなる利を
今年、商法をよくすの目
し、今年、正月から利を
えそのマス

段二下行奈

段二下行波

段二下行麻

段二下行也

將然 ㊦ ㊧ ヤウ
終止 ㊨ ネマス
連体 ㊩ ネルワイ
已然 ㊪ ネガマア

大さうくひきま
したまやくヤウ
夜が更らうネマス
酒まえうたとえ
てあまあのやうに
ネルワイ
くくひきたらう
こも昨夜のう
ネガマア

連用 ㊫ やまむ

㊬ ㊭ ㊮ ㊯
ひまこらう早く
やまむマス

將然 ㊰ ㊱ ヤウ
終止 ㊲ ソヘマス
連体 ㊳ ソルワイ
已然 ㊴ ソヘガマア

こまごの進物をま
たうら合一品を
ヤウ
品がまくないうら
うらこれのやう
みソヘルワイ
品物が不足ヤウ
こもあのやうな
物をもソヘガマア

連用 ㊵ ㊶

㊷ ㊸ ㊹
こまごの進物をま
ないゆえ又一品を
㊺ ㊻

將然 ㊼ ㊽ ホマス
終止 ㊾ ホヘマス
連体 ㊿ ホルワイ
已然 ㊿ ホヘガマア

此度の狂言より出
来た狂言ヤ世間
てホのヤウ
狂言がむらうら
くらホヘマス
狂言がむらうら
の誰むたやう
とであまあのやう
ホルワイ
見狂言がふけれ
はこも大きうま
メタガマア

連用 ㊿ ㊿

㊿ ㊿
此度の狂言の大
りヤ世間では
なまマス

將然 ㊿ ㊿ ヤウ
終止 ㊿ キエマス
連体 ㊿ キエルワイ
已然 ㊿ キエガマア

たいさうに雪がつ
つたが春まうら
キヤウ
あつらうら雪が
キエマス
春の雪のうら
つらなあれ
あのやうまキエル
ワイ
春になつたれ
を高山のやう
だんぐキエガ
マア

連用 ㊿ ㊿

㊿ ㊿
春まなつてあ
になつて故去年の雪
だんぐま

語彙活言抄

良下行二段		和下行二段	
<p>終止かる カレマス</p> <p>連体かる カレルワイ</p> <p>已然かる カレガマア</p>	<p>終止かる カレマス</p> <p>連体かる カレルワイ</p> <p>已然かる カレガマア</p>	<p>終止かる カレマス</p> <p>連体かる カレルワイ</p> <p>已然かる カレガマア</p>	<p>終止かる カレマス</p> <p>連体かる カレルワイ</p> <p>已然かる カレガマア</p>

加行變格		佐行	
<p>終止 キマス</p> <p>連体 キルワイ</p> <p>已然 キタガマア</p>	<p>終止 キマス</p> <p>連体 キルワイ</p> <p>已然 キタガマア</p>	<p>終止 キマス</p> <p>連体 キルワイ</p> <p>已然 キタガマア</p>	<p>終止 キマス</p> <p>連体 キルワイ</p> <p>已然 キタガマア</p>

<p>御たちあせりし てたびの目数 つりまいたま ごらんごまオ ハ⑩ウ</p>	<p>遠路もわか なく御着きて たひらふおは マ⑩マ⑩マ⑩</p>	<p>我君の今 とらにオハ マ⑩</p>	<p>患苦を志つて コサル君の別段 ギヤ遠路をも 歩行てあまあ のやうにオハス ワイ</p>	<p>患苦を志め給 ふ君なまはこ とこのやまな 國までもオハ タガマア</p>
<p>将然⑩ハ⑩ウ 連用⑩ハ⑩ウ</p>	<p>終止⑩ハ⑩マ⑩</p>	<p>連体⑩ハ⑩イヌル イヌル</p>	<p>已然⑩ハ⑩イヌル イヌル</p>	<p>已然⑩ハ⑩イヌル イヌル</p>
<p>そのやうに慕ふ たつらつと ないつま、イ ⑩ウ</p>	<p>足もとを になう道中 い⑩ハ⑩マ⑩</p>	<p>けふのやうの こと故終 イニマ⑩</p>	<p>長旅まつら と見えやう の體であま やういヌル ワイ</p>	<p>おどろく あけはこ 遠路の ハ⑩イヌル ガマア</p>

<p>吐下うづい病 ヤヌよつて もかなつぬ やがて⑩ハ⑩ウ</p>	<p>まかり病こま つたもの くの人 セマ⑩</p>	<p>あの人病が あつた まハ⑩マ⑩</p>	<p>つま人も病 でい ないあま やうに スル</p>	<p>病なまはこ つまい人 ンダガマア</p>
<p>将然⑩ハ⑩ウ 連用⑩ハ⑩ウ</p>	<p>終止⑩ハ⑩マ⑩</p>	<p>連体⑩ハ⑩イヌル イヌル</p>	<p>已然⑩ハ⑩イヌル イヌル</p>	<p>已然⑩ハ⑩イヌル イヌル</p>
<p>良行 気をもんでも別 よいこと このまいてア⑩ウ</p>	<p>志あせり 志たう あ⑩ハ⑩マ⑩</p>	<p>志たう あ⑩ハ⑩マ⑩</p>	<p>運のよい人 あせがよ マ⑩</p>	<p>運がよけ よいま ツタガマア</p>

一段一格

<p>將然を⑤ フラウ</p> <p>どこに居てよいから 席がどこからまうア まをらうくにマ ウ</p>	<p>連用を① さだまる</p> <p>席がきまらたといえ ておのづか①さだ まりマス</p>	<p>連体を⑤ フルワイ</p> <p>御召のあるまでの 門出もろこさず こそこのやうにフ ルワイ</p>	<p>已然を⑥ フツタガ マア</p> <p>御召があまりにこ そくにひらへて フツタガマア</p>
<p>終止を④ フリマス</p> <p>御召のあるまでの くくにひらへてフリ マス</p>			

形状言俗解

く し き 活 用

<p>連用あき① なるふ</p> <p>そなたも不責ぢや からうかへぬあき ①なるふマス</p>	<p>終止あき① アサイ ぢヤ</p> <p>どうも骨をらぬ こころにさうア サイぢヤ</p>	<p>連体あき② アサイ ワイ</p> <p>事が成就せま ころにさうあき あのやうにアサイ ワイ</p>	<p>已然あき④ アサイ マア</p> <p>氣がうらやまけ まじこそあの人の ころにさうアサ イガマア</p>
<p>連用 ④ たのむ</p> <p>あなうにたのむと あのやうなまて くしうふの④たのむ マス</p>	<p>終止 ① アカイヂヤ</p> <p>あのやうに骨をら ぬこころにさうア アカイヂヤ</p>	<p>連体 ⑤ アカイ ワイ</p> <p>事がたちまらふ 成就ままたやうこ ころにさうあき あのやうなアカイ ワイ</p>	<p>已然 ④ アカイ マア</p> <p>うまきつきたれ こそあの人のこ ろにさうアカイ ガマア</p>

用活き志く志

連用 かな①おもふ	終止 かな①カナレイ	連体 かな①カナレイ	已然 かな①カナレイ
情にせまれの涙がこ がまごかたしくお もひたす	情にせまれのカナレ イヂヤ	情にせまきこれ このやうにカナレイ ワイ	情にせまれのこ もむらうらう カナレイガマア
久しうあつねがこひ ①ありマス	久しうあつねをこひ レイヂヤ	久しうあつねを こひこのやうにこひ レイワイ	おひのふあつねが こそ此頃このやう コヒレイガ

形状言くつき活用の詞の志るハ本書活語の條下ハ知知、
 知知知知、と志るハたもの省界せらめて知知知知知知
 知知、とつてしまなまもせめてあまのこまあげくならてまらる
 しけまがまふらんと志か心得て見らるハ
 ①この書本活語の條下ハ志るせる活用をたもてくさしきま
 とてかく圖みあらせしこれをよくあきらめてのち別記をよ
 く見あきらむる時、詞の活用辭の運用ともあきらむるあきら
 るハなり

編輯權助木村正辭

總裁

權少外史橫山由清

岡本保孝

神祇大錄

小中村清矩

神原芳野

同撰

黑河真頼

間宮永好

塙忠韶

明治廿四年四月廿五日印刷

京都府葵屋町御池上

兼印者 水田市次郎

